

二代目吉田奈良丸について 新聞記事より

◆『奈良丸評判記』は別紙

■は大阪朝日新聞(朝日新聞クロスサーチ)

◎は大阪毎日新聞(毎索) 『浪花節変遷史』(芝清之編)にはなし

■明治四十二年一月三十日 ⑪面 演芸

▲一日より弁天座に出勤する浪華節吉田丸は 大和出身とて同国人にヒイキ多く 明三十日の乗込には花々しく梅田まで出迎へるといふ

■明治四十二年二月一日 ⑨面 演芸

▲弁天座の吉田奈良丸は一昨夜乗込式を挙たり……………〔写真入り、説明文は「弁天座登場の浪花節 吉田奈良丸」〕

◎明治四十二年二月一日 ⑨面 演芸だより

中 弁天の二座は愈よ本日より……………●弁天座初日(今晚)吉田奈良丸の演題は□義士伝(内匠頭松の廊下刃傷より田村邸切腹まで) □盛衰記(景清鶴が岡八幡) 〔写真入り、説明文は「弁天座出演 浪花節吉田奈良丸」〕

■明治四十二年二月三日 ⑪面 演芸

弁天座の吉田奈良丸は一昨日開場したるが 出演前に大入札をかつげる好人気なり 在来の浪花節を改良工夫せん意気込みなれば節も詞も上品なり 今夜の語り物は義士伝の内堀部安兵衛の印籠盗みと盛衰記の続きなり

■明治四十二年二月十一日 ③面 演芸

▲弁天座吉田奈良丸は連夜大入に付 十五日迄日延……………

■明治四十二年二月十七日 ⑨面 演芸の横

慈善演芸会 ……浪花節吉田奈良丸は大にこれを賛成し 将来各地に演ずる一日もしくは二日を慈善興行とし 其の上り高を興風会に寄付する事とせり 尚同人は同会の唱歌に節を付けて読み 且表彰されたる人々の事を浪花節に物せば有益なるべしとて目下準備中なり 右につき第一着として明十八日より二十日まで三日間 午後六時より中之島公会堂に於て得意のものを演ずるとぞ